

【共通体験（ウォークラリー）の段階】の展開案（90分）

1 ねらい

児童自身の感覚器官を十分働かせる大槌川ウォークラリーを行う中で、水質・生物の生態・川の形状などに疑問や興味・関心をもつことができる。

2 展 開

時間	学習活動	「北っ子プラン」の活用	指導上の留意点
	1 今日の活動のめあてを知る。(校庭)		
	大槌川ウォークラリーを楽しみ、大槌川についての「はてな？」を発見しよう		
10分	2 大槌川ウォークラリーについて知る。 ・時間内に問題を解く。(7～8問) ・グループで協力し合う。	◇ 共通体験の場の提示 「大槌川ウォークラリー」	● 大槌川ウォークラリーについてわかりやすく説明する。
10分	3 活動場所へ安全に移動する。 ・道路の横断の際に十分注意して渡る。	<設定予定の問題> ○ 手の感覚を生かす問題 ○ 足の感覚を生かす問題 ○ 目の感覚を生かす問題 ○ 水質に関する問題 ○ 耳の感覚を生かす問題 ○ 水生生物に関する問題 ○ 鼻の感覚を生かす問題 ○ 砂防ダムに関する問題	● 3人の教師によって、列の前・中央・後から児童の安全を確保する。
5分	4 川の活動での注意点を理解する。		● 川での危険性を紙しばい形式で表すことにより、言葉で話すだけでなく視覚にうったえ印象を強める。
45分	5 大槌川ウォークラリーを体験する。	◇ 「はてな？発見」カードの活用	<注意点> ・流れの速いところ ・水深がひざより深いところ ・流木などに気をつける ・一人での行動はしない ・笛の音が聞こえる範囲で行動する など ● 安全面に留意し、三つの地点から児童の活動を見守る。できるだけ児童の思いのままに十分活動させる。
10分	6 集合して、ウォークラリーで発見したことや感想をカードに記入する。		● 3人の教師によって、列の前・中央・後から児童の安全を確保する。
10分	7 安全に帰校する。		

3 評 価

大槌川での自然体験をすることによって水質・生物の生態・川の形状などに疑問や興味・関心を持ち感覚器官を十分働かせて活動したことを発見カードに記入することができたか。

【課題設定の段階】の展開案（90分）

1 ねらい

「はてな？発見カード」を手がかりに一番気になることを問題意識としてもち、自分と同じ考えの友達と話し合っって課題をつくることができる。

2 展開

時間	学習活動	「北っ子プラン」の活用	指導上の留意点
3分	1 今日の学習のめあてを知る。  大槌川を調べるための課題をつくろう。		●課題を板書し、本時の学習内容をしっかりとつかませる。
30分	2 発見カードを使って発見したことの分類を行う。		●分類したものを板書で示し、児童の発見したことを視覚でとらえさせる。
20分	3 自分が一番気になるものを決める。 ・発見したことの中で一番気になるものを選ばせ、問題意識を焦点化させる。	「北っ子プラン」シート配布 ○感じたこと・考えたこと・思ったことの欄「①」に書き込む。	●発見の視点や児童自身の力で発見できたことを具体的に示してほめ、よさを認める。 ●自分自身のこだわりを意識させ、疑問や興味・関心などの問題意識を焦点化できるように導く。
30分	4 同じような考えの友達とグループをつくり、課題文を決める。	○課題・メンバーの欄「②」「③」に決まったことを書き込む。	●グループ名やリーダー・副リーダーも決めさせて、主体的な活動をめざそうとする気持ちにさせる。 ●本時の活動の様子について話し、児童の活躍を認める。
7分	6 本時のふり返しをする。 ・今日の学習のめあてに照らし合わせてふり返る。		

3 評価

「はてな？発見カード」を使って問題意識を明確化・焦点化し、自分が一番気になるものを見つけて友達と一緒に学習課題をつくることができたか。

【計画立案の段階】の展開案（90分）

1 ねらい

自分の課題に応じた解決方法を考えて計画を立てたり、自己評価の観点を決めることができる。

2 展開

時間	学 習 活 動	「北っ子プラン」の活用	指導上の留意点						
3分	1 今日の学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分たちの課題を解決するための計画を立てよう</div>		●課題を板書し、本時の学習内容をしっかりとつかませる。						
20分	2 解決するために必要な方法や手段を知る。 ・協力してくださる方の紹介 ・ガイドブック（調べ方、まとめ方、発表の仕方）	○具体例を見ながら、自分が今までにやったことのある方法、自分の課題に適した方法などを考えて決め、「④」の欄に記入する。	●選ぶときの視点を示し、児童が選びやすいように配慮する。 ・ガイドブック配布 ・紙板書						
20分	3 自己評価の観点を決める。	○【活動でめざすこと】を決めて、「⑥」の欄に記入する。	●「調べて終わり」ではなく、児童の成長を期待していることを伝え、評価の観点を決める意義を意識させる。 ●児童が自ら考えるのに困難な場合は、教師が具体的に例示して、観点を示す。						
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>調べ方</th> <th>まとめ方</th> <th>発表の仕方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・目的をもって ・あきらめないで最後まで ・自分の力で</td> <td>・うつすだけでなく自分の言葉で。 ・わかりやすく工夫して</td> <td>・はっきり話す ・（クイズ形式にするなど）工夫して ・恥ずかしがらずに</td> </tr> </tbody> </table>	調べ方	まとめ方	発表の仕方	・目的をもって ・あきらめないで最後まで ・自分の力で	・うつすだけでなく自分の言葉で。 ・わかりやすく工夫して	・はっきり話す ・（クイズ形式にするなど）工夫して ・恥ずかしがらずに		
調べ方	まとめ方	発表の仕方							
・目的をもって ・あきらめないで最後まで ・自分の力で	・うつすだけでなく自分の言葉で。 ・わかりやすく工夫して	・はっきり話す ・（クイズ形式にするなど）工夫して ・恥ずかしがらずに							
40分	4 予定表を見ながら計画を立てる。 (1)課題や日付けを記入する。 (2)方法の手順を決める。 (3)課題の予想を立てる。 (4)役割や準備物を決める。	○「⑤」の北っ子学習の予定表を活用して自分たちの計画を立てる。	●調べる活動・まとめる活動の大まかな日程の見通しをもたせ、限られた時間を有効に活用できるように考えさせる。 ●自分たちの力で計画できたことをほめて認める。						
7分	5 ふり返りをする。 ・今日の学習のめあてに照らし合わせてふり返る。 ・テーマを知る。		●本時の活動の様子について話し、児童の活躍をほめる。						

3 評価

自分の課題に応じた解決方法を考えて日程に照らし合わせて計画を立てたり、自分の高まりを意識した自己評価の観点を決めることができたか。

【調査活動の段階】の展開案 (90分×4回)

1 ねらい

計画に基づいて自分たちの力で調査活動をし、調査をふり返って計画の検討・修正をすることができる。

2 展開

時間	学習活動	「北っ子プラン」の活用	指導上の留意点
3分	1 今日の学習めあてを知る。  課題について調べ活動を行い、必要な情報を集めよう		●課題を板書し、本時の学習内容をしっかりとつかませる。
10分	2 グループの活動場所や担当の先生を確認する。	○役割分担と調査の手順について確認する。	●教師の分担についても児童に知らせ、困ったことが起きた場合に相談に応じる。
70分	3 各グループの活動場所に別れて調査活動を行う。 <予想される活動場所> 【校舎内】 ・電話・FAXなどの調査の準備と調査 ・理科室での観察や実験 ・図書やインターネットでの調査 【校舎外】 ・川の下流での調査(観察・実験) ・川の上流での調査 ・川のそばに住む地域の方への聞き取り調査	○計画に基づいた調査活動をし、自分たちの力で情報収集する。	●児童の自主的な活動を重視するが、以下の場合には、教師の支援・指導を行う。 ①危険が予測されるとき ②児童の判断だけでは調査が進まないとき ③計画が大まかすぎて、手順をしっかりとつかんでいないとき ④児童から相談されたとき
7分	4 集合し、本時のふり返りを行う。	○調査活動の進行状況をふり返り、計画の検討・修正を行う。	●日程・方法・調査の深まりなどについてふり返らせ、計画の検討・修正を行わせる。

3 評価

- ・計画に基づいて課題を解決するための調査活動を自分たちの力でやり、必要な情報を集めることができたか。
- ・調査活動をふり返って計画の妥当性を検討し、必要に応じてよりよい計画に修正することができたか。

【まとめの段階】の展開案（まとめ方の工夫を考える時間）45分

1 ねらい

調査したことを分かりやすく伝えるためのまとめ方を工夫することができる。

2 展 開

時間	学 習 活 動	「北っ子プラン」の活用	指導上の留意点
3分	1 今日の学習のめあてを知る。  自分たちが調べてきたことを分かりやすく伝えるために工夫したまとめ方を考えよう		●課題を板書し、本時の学習内容をしっかりとつかませる。
15分	2 誰に伝えたいか、どんな工夫の仕方があるか考える。  ○誰に伝えたいか <考えられる相手> ・お世話になった方々 ・学級・学年の友達 ・地域の方々 ・全校の友達  ○どんな工夫の仕方があるか	○自分たちのグループのまとめ方・発表の仕方をもとに、工夫の仕方を考える。	●方法に応じた工夫が思い浮かばない場合は、次のような具体例を提示する。 ①文字の大きさや色を変える。 ②絵や写真を入れて様子を分かりやすくする。 ③分かりやすい文で書く。（難しい言葉には説明を入れる） ④実物を見せる。  など
20分	3 伝えたい相手や工夫の仕方を決める。 ・グループで話し合い、学習シートに記入する。		●話し合いの結果を一覧表にし、全体をとらえやすくする。
7分	4 本時のふり返りをする。 ・今日の学習のめあてに照らし合わせてふり返る。		●活動中の児童の様子についてふれた話をし、グループの活躍を認める。

3 評 価

調査したことを誰に伝えるか明確にし、分かりやすく伝えるために自分たちでまとめ方を工夫することができたか。

1 ねらい

自分たちの課題を解決した成果を発表し合い、自分のよさに気づいたりこれからの生き方について考えたりしながら、今後の展望をもつことができる。

2 展 開

時間	学 習 活 動	「北っ子プラン」の活用	教 師 の 支 援
5分	1 今日の学習のめあてを知る。		
	自分たちが課題解決した成果を伝えよう		
50分	2 発表する。 ・ 1グループの発表時間は10分。 ・ 進行、時計係を決める。	○自分の【活動でめざすこと】を確認する。	●達成できるように励まして、発表に移る。 ●発表内容について励ましやねぎらいの言葉を添える。
10分	3 自己評価・相互評価する。 <相互評価> ・ 1組は2組を ・ 2組は1組を	○【活動でめざすこと】をふり返って、「活動でめざすことふりかえりシート」に記入する	●相互評価では、発表の仕方や伝わり方についてできるだけ励ましの言葉を重視して書いてもらう。
10分	4 教師からの評価 ・ 調べる活動に関して ・ まとめる活動に関して ・ 発表に関して ・ 大槌川の学習全体に関して		●児童の活動の様子を「よさ」に視点をおいて評価し、気づきを促す。また、環境に関して、自然に生きる生物と人間との共生・共存についてもふれて、今後の生き方を考えさせる。
15分	5 自分のよさに気づき、生き方を考える	○「未来の自分へのメッセージ」を書く。	

3 評 価

自分たちの課題を解決した成果を発表し合い、自分のよさに気づいたりこれからの生き方について考えたりしながら、今後の展望をもつことができたか。

【発表段階】の展開案（90分）

1 ねらい

自分たちが課題解決したことを発表し合い、大槌川について再発見したことや取り組みにおける自分のよさに気づくことができる。

2 展開

時間	学 習 活 動	「北っ子プラン」の活用	教 師 の 支 援
10分	1 発表会の計画に沿って準備をする。 ・発表に使う物 ・会場設営	◇発表に使用する機器の準備	●発表する側の留意点・聞く側の留意点を明確に示す ●達成できるように励まして、発表に移る。
5分	2 今日の学習のめあてを知る。		
	自分たちが伝えたい相手にわかりやすく伝えるために、みんなで考えよう		
60分	・伝えたい相手はだれか。 ・発表でめざすことは何か。 もう一度確認する。	◇相互評価のポイント ・伝えたい相手 ・発表でめざすこと	●伝えたい相手・内容を意識して相互評価する。 ●教師の評価は児童が自分のよさに気づくようにし、成果と課題が明確になるように話す。
	2 発表し、相互評価し合う。 ・1グループの発表時間は5分。 ・進行、時計係を決める。 ・発表→聞いている児童 教師の評価	◇発表後に相互評価し合う ・発言して相互評価 ・カードを使って相互評価	
15分	3 大槌川について再発見したことや取り組みにおける自分のよさについて考える。	◇自分のよさ発見カードの活用	

3 評 価

自分たちが課題解決したことを発表し合い、大槌川について再発見したことや取り組みにおける自分のよさに気づくことができたか。